

## レフェリーレポート

平成27年 11月 大分県ハンドボール協会

瀧元 泰昭

小林 宏匡

### 【参加大会】

九州インカレ

6月27日(土)～6月28日(日)

会場：西南学院大学・九州産業大学

### 担当試合

一回戦	福岡大学	V S	熊本学院大学	31-10
二回戦	福岡大学	V S	西南学院大学	28-15
準決勝	九州産業大学	V S	九州大学	33-25
決勝	福岡大学	V S	九州産業大学	31-21

### 【レポート】

#### 一日目

九州インカレに参加し、男子の試合を二日間で4試合、吹笛させていただきました。初日の課題は、普段大学生の試合を吹笛する機会がないため①スピード感に慣れる、そしてスピード感あふれる試合を崩さないためにスムーズな試合進行を目指し、②ペア間のアイコンタクトの徹底、そしてフィジカル面で強い大学生へ対し③基準の明確化、そして④顔面付近に対する罰則を厳しく取る、ということをして臨みました。

予想通りクイックスタートや接触プレーが試合開始直後から多く続き、ゲーム序盤からイエローカードや段階罰無しの一発退場が出る場面もありましたが、基準を明確にすることが出来たため、大きく崩れることなくゲームを進めることが出来ました。

納得のいかない表情を浮かべる選手にはしっかりとコミュニケーションをとりました。しかしコミュニケーションの取り方も技術の一つだと感じさせられました。

顔面又は顔面付近のコンタクトに関しては学生もまだ理解できていない部分が多く、シユート体勢の場面で自然と手が出てしまう危険な場面もありました。そういった局面も冷静に対処しアイコンタクトを合わせ、場合によってはタイムアウトを取り確認し吹笛できたことはよかったと思います。

## 二日目

初日の反省をもとに二日目も課題をもって吹笛しました。トーナメント大会の為、二日目は更にレベルの高い攻防が予想されました。①スピード感への慣れと集中力②アイコンタクトの徹底③基準の明確化④段階罰やターンオーバーの判定に対しての選手だけでなくベンチとのコミュニケーション⑤顔面に対する罰則の適用、を上げて試合に臨みました。

スピード感は初日に比べ慣れもあつてか感じなくなりました。しかし選手のスキルが向上してくる試合ということもあり、独特のステップを踏む選手や、反則を装うプレーなども多く見受けられるようになりました。アイコンタクトを取りながらタイムアウトやハーフタイムにも基準を確認し合い、お互いの考えを近づけながら吹笛することができました。二日目は顔面に対する反則もあまり無く初日の吹笛が生きてきたと実感する部分もありました。

ベンチとのコミュニケーションもスムーズに行うことができ、お互いにストレスがかからないよう努めることが出来ました。

◎審判員のレベルが、県の競技レベルにつながるとも言われています。

今回、レベルの高いカテゴリーで吹笛させていただいた経験を今後活かすと同時に、大分県の審判員のレベルが向上していくよう尽力していきたいと思えます。